

# 西園寺公望書翰

——鳩居堂熊谷信吉（順行）宛——

竹 村 房 子

〔解題〕この書翰は、鳩居堂八代目熊谷直行長女まつの養子、熊谷信吉宛に西園寺公望より送られた七十四通であり、熊谷信吉子孫、熊谷直英氏が所蔵しておられるものである。

鳩居堂は、京都市上京区寺町姉小路上ルの江戸時代より続く、薫香、筆墨の老舗である。書翰の内容は、西園寺の趣味生活の一端を窺わせるものである。

付、封筒の書き方については、○は封筒表、△は封筒裏を示す。宛名に熊谷信吉様・順行様とあるのは同一人物である。（「選名録」明治四十四年十二月二十七日付、熊谷直英氏所蔵、による。）句読点等は、著者が適宜つけ加えた。

著者註は①②で表し、最後にまとめて示した。旧字は当用漢字に改めた。

## 1 明治四十二年十一月十三日

○京都寺町通姉小路角 鳩居堂にて  
熊谷信吉殿 親披〔印版〕東京神田区 南甲賀町五 西園寺公望

△〔消印四二・十一・十三〕

拝啓 御依頼申候脱脚机出来得る義ニ候はば、本月終ニ落手いたし度候、勿論強てと申事には無之候得共、実は十二月二日より暖地旅行試度右の間に合候得ば至極妙ニ候。子母印上出来にて満足候に文字等研究中ニ付、いづれ御面働可相願候。要用而已 草々頓首

十一月十二日 公望

熊谷様 梧右

## 2 明治四十二年十二月十一日

○東京々橋区尾張町新地一 鳩居堂支店にて 熊谷信吉殿 親披  
△静岡県下沼津駅 千本浜仙松閣

西園寺公望

拝啓 兼て好候品御恵投被下旅中殊ニ難有存候。家内打寄度ニ相用候。机は至極工合よろしく此地ニ携帯日夜相親候。却説若御暇も有之候はば御一訪被下間布哉。子母印ニ付御相談いたし度、勿論手帑にてもわかり候得共拝芝の上なれば尤妙と存候。猶珍品も候はば拝見いた

窓 し度存候。御都合ニより御帰京之折御立寄被下候ても宜布候。午前八

史

時半新橋発なれば三時間にて着いたし候。此地烟波縹緲頗る温暖にて  
二三日御滞留なれば更ニ妙ニ有之候。机代は東京へ送り候ても御出の  
節手交いたしても御都合次第ニ可致候。御出なれば鳥渡日時御打電被  
下度候。要用而已 草々頓首

十二月十一日 公望

熊谷様 梧右

3 明治四十二年十二月十七日

○(葉書) 東京々橋区尾張町新地 鳩居堂支店 熊谷信吉様行 沼  
津にて

西園寺公望

拜啓 来十九日午後より二三日此日を留守にいたし候ニ付、其頃御出  
被下間布右得貴意置候。年末御多忙御察申入候。草々頓首  
十二月十七日午前投函

4 明治四十三年一月二十四日

○京都寺町通姉小路 鳩居堂熊谷信吉殿 親披 [印版] 西園寺  
△[消印四三・一] (日付不鮮明)

食卓別席の通りにてよろしく候間ニ箇御命じ被下度候。但し高サ八寸  
と有之候得共九寸ニいたし度趣ニ候。要用而已 草々頓首

一月二十四日 公望

5 明治四十三年一月二十六日

○京都寺町姉小路 鳩居堂熊谷信吉殿 親披 [印版] 西園寺

△[消印四三・一・二七]

拜啓 入札品其他ニ付御来示之趣承知仕候。宜布願上候。食卓ニ関し  
呈書いたし置候。御覽被下候事と存候。用墨ニ付てハ別席の内御選択  
被下度候。八がけ十六掛と兩様ニ御作り可被下候。香氣を十分に  
且ツ和らかニ願度候。形式ハ純粹支那風ニ願度候。余ハ後鳴ニ讓  
々頓首

一月二十六日 公望

鳩居堂様 梧右

巾並ニ分ノ旧サハ過日御患投寛弘墨至極よろしくと存候。

6 明治四十三年三月十一日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂 熊谷信吉殿 拜復 [印版] 西園寺  
△静岡県沼津町千本浜 西園寺公望

拜啓 十六日頃御来訪云々御待申候。十八日頃より鳥渡大磯ニ立寄  
二十日又ハ廿一日頃東京ニ帰り候。心組ニ有之候。右得貴意置可度如  
此候。名硯ハ鶴望いたし居候。草々頓首

三月十一日 公望

熊谷信吉様 梧右

7 明治四十三年七月七日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂 熊谷信吉殿 [印版] 東京神田區南

甲斐町五・西園寺公望

△[消印四三・七・七]

⑩ 拝啓 筆接手候。早速試候処大ハ申分なく候得共小ハ妙ならずペラ／＼として鋒剛く腰弱き感有之候。今一工夫して御結はせ被下度候。見本とは甚劣り申候。右不取敢得貴意度余ハ後鳴ニ譲り候。草々頓首

七月六日 公望

鳩居堂様

追而軸も重く候て見本ハ三匁有之新品ハ四匁有之候。右軽くする事はわけもなき義と存候。今一本可成速ニ御作らせ願上候。

8 明治四十三年七月九日

○京都寺町通姉小路角 熊谷信吉殿 親披〔印版〕東京神田區南甲賀町五 西園寺公望

△〔消印四三・七・九〕

拝啓 昨筆之事申入候処、大も今一本御作らせ被下度候。右は申分無之前同様品にて宜布候。但し軸はなるべく軽く出来候やう頼入候。小は今日も相試候得共何分妙ならず昨日申入候通りニ希候。是又可成早く第二成功鶴望候。草々頓首

七月七日 公望

鳩居堂様

9 明治四十三年九月二十四日

○東京々橋区尾張町新地一 鳩居堂東京支店宛 熊谷信吉殿 親披

〔印版〕神奈川縣大磯町 侯爵西園寺公望〔消印四三・九・二四〕

拝啓 明後廿六日午前ニ帰京可致候間同日午後駿賀台宅へ御一顧被下

候は、好都合ニ有之候。若又同日弥御西帰御発途にて御都合あしく候はば、来月中旬京都へ一遊可仕候間彼地にて寛々得拜眉候も妙と存候。右申入度如此候 草々頓首

九月二十四日 公望

熊谷様 梧右

10 明治四十四年一月二十日

○京都寺町通姉小路 鳩居堂熊谷信吉殿 親披 〔印版〕西園寺△駿河沼津字千本 西園寺公望〔消印四四・一・二一〕

拝啓 玉章軸並に小印相屈慥ニ落手仕候。いづれも上出来にて満足此事ニ候。感謝の至ニ候。猶又合作改装成就は、沼津寓へ御送り被下度候。其他の品も同様願上候。寓居ハ封筒ニ認置候。右草々頓首

一月二十日 公望

熊谷様

昨冬来神經痛にて閉口罷在候。同情被下度候

11 明治四十四年八月十二日

○京都寺町通姉小路角 鳩居堂御中 要急 〔消印四四・八・一〕

二

△上州伊香保木暮方 西園寺公望

〔消印四四・八・一三〕

拝啓 御嘱海屋書朱子家訓跋語可相認存候処、大小寸方（御話しの切置此地へ持参候やう存居候処不見当）わかり兼候間右至急御申越し被下度候。直ニ一掃可仕候。右要用而已 草々頓首

窓  
八月十二日 公望  
熊谷信吉殿  
史

12 明治四十四年八月十九日

○京都寺町通姉小路角 鳩居堂 熊谷信吉殿 親披

△上州伊香保 西園寺公望 [消印四四・八・二〇]

拝啓 御囑揮毫段ニ延引御海恕被下度候。実ハ幾度も相試候処意ニ叶はず甚赤面ニ候得共差封候。御叱留願上候。菓子御恵与皆々打寄度々に相用候。感謝此事ニ候。草々頓首

八月十九日 公望

熊谷様 梧右

13 明治四十四年十月十日

○京都寺町通姉小路角 鳩居堂熊谷信吉殿 親披

△東京永田町官舎 西園寺公望 [消印四四・十・十二]

拝啓 盛田久左衛門氏所藏品入札云々目録御郵送被下落手仕候。右の内、第一一二螺鈿花鳥長方 平卓 二〇二 古染付牛煎茶盃・十客もしよろしき品なる時ハ右の二品御序も有之候はゞ御入札被下度候。勿論是非所望と申訳には無之候間、あまり法外なる高値の時ハ御避け願度候。要用而已 草々頓首

十月十日 公望

熊谷様 梧右

14 明治四十四年十一月十六日

○京都寺町通姉ケ小路角 鳩居堂熊谷信吉殿 要急親披  
△東京永田町官舎 西園寺公望 [消印四四・十一・十七]

御手帑並ニ目録一冊落手候。右の内更紗ハ御来示の如く手ニ入れ度存候間、宜布願上候。不取敢御答迄 草々頓首

十一月十六日 公望

熊谷様 梧右

15 明治四十五年一月二十四日

○京都寺町姉小路角 熊谷順行殿 親披 [印版] 西園寺

△東京永田町官舎 西園寺公望

拝啓 入札目録御郵致被下接手候。此度は別ニあしきものも見あらず候得共、三七二雜木四方手盆右佳品ニ候得ば手ニ入れてもよろしく候。御まかせ申候。不取敢御答迄 草々頓首

一月二十四日 公望

鳩居堂様 梧右

16 明治四十五年二月二十九日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂 熊谷順行殿 親披

△東京 永田町官舎 西園寺公望

[消印四五・三・一]

拝披 無御障御帰京雀躍不齊候。目録一見候処海屋蓮の画真物ならばほしく考候。能々御鑒定の上御入札被下度右不取敢御答迄 草々頓首

二月二十九日 公望

熊谷順行殿

17 明治四十五年四月十六日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂熊谷順行殿 親披  
△東京永田町 西園寺公望

目録御遣候。一見いたし候。二九三紅皮座蒲団上等の品ニ候はゞ、ほしく候間御入札被下度候。九三探幽達摩佳品ならばほしく候へ共代価の見当大抵の処にてよろしく候間電信にて御示し被下度候。要用而已草々頓首

四月十六日

熊谷様

18 四月二十六日

○熊谷順行殿 公望 皮蒲団並幅四箱添皮蒲団可申受旨申入置候処如何にも不揃且つ見苦しく候間返却候。御迷惑とは存候得共御話の次第も有之不悪御諒恕可被下候。掛物四幅是又返却候。御查收可被下候。更紗服沙右はほしく候間留置申候。要用而已 草々頓首

四月二十六日 公望

熊谷様

19 明治四十五年五月六日

○京都寺町姉小路角 熊谷順行殿 親披

△東京永田町官舎 西園寺公望〔消印四五・五・七〕

拝披候。詞譜表帟御注意の通り御とりかへ願上候。箱も御命じ可被下候。殿下御筆小品間違候処折角出来あがり候事故当分此儘ニいたし置候。他日扁額ニ作り候ても不遅と為事朱子家訓二三日中郵送可仕候。

不取敢草々頓首

五月六日 公望  
熊谷様 梧右

20 明治四十五年六月六日

○京都市寺町姉小路角 熊谷順行殿 親披

△東京永田町官舎 西園寺公望〔消印四五・六・七〕

御遣しの目録の中ニ紅皮座蒲団十帖と有之右上等の品ニ有之候はゞ御入札被下度御依頼申候。十分御吟味被下度候。要事而已 草々頓首

六月六日 公望

熊谷様 梧右

21 明治四十五年七月十三日

○京橋区尾張町新地 鳩居堂東京支店 熊谷順行殿 親披〔印版〕西園寺

△永田町官舎 西園寺公望

過日御話有之候紅皮座蒲団よろしき品なれば価ニかまはず求度相成候処、如何哉御とりよせ被下間布哉。右申試候 草々頓首

七月十三日 公望

熊谷様 梧右

22 大正一年八月二十五日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂熊谷順行殿 親披〔印版〕西園寺

〔消印八・二五〕

窓 △東京永田町官舎 西園寺公望（消印一・八・二六）

史 拝啓 白石先生書巻包並ニ唐本帙等落手仕候縷々御面働感謝の至ニ候。白石書ハ唐本仕立にして沓冊ニ綴りよろしき帙を御作らせ被下度候。寸法ハ別紙ニしたゝめ候やう中央ニ詩を張り上下へ紙を出し大冊ニ願度候。表帙ハ御見計ひにてよろしき紙ニいたし度例の土器色の品沓寸三分弱

リンカクの中詩の原本	
沓寸	改五分
沓尺零幾分	聖駕以下第三
十枚	茅一
明千家詩以下茅四	

にてもよろしく候。帙用の為めニ切置を差出候得共此切置うつりあしく候はゞ別ニ御見計ひ被下候てもよろしく候。猶御わかり兼候義も候はゞ乍御面働手帑にて御尋願上候。用事而已 草々頓首

八月二十五日 公望

熊谷順行殿

別ニ唐本沓冊差出候。是も仕立御命じの上帙御作らせ被下度候。

麴米の品にてよろしく候。白石先生詩書を唐本仕立ニ製し候事ハ随分面働なる義と存候間十分ニ上手なる職人御精選の上能々御申付願上候。

話の順序は札を付け置候間よく御覽被下度候。「帖の五言律

（第一）卷の七言律（第二）卷の聖駕云々と有之候以下（第三）

同卷の明千家詩云々と有之候処より第三聖賀迄（第四）卷の（第五）右の順序ニ間違なきやう願上候。即五言律七言律七言絶句の順ニ御坐候。此中間少々づつまじ居候処ハ其儘にてよろしく候

23 大正一年八月二十六日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂熊谷順行殿 親披

△東京永田町官舎 西園寺公望（消印一・三・二六）

白石詩書ニ付可刻一書を呈し候処申落し候間、于此申添之題字序跋等ハ総て取り除き冊子前後ニ白紙を三枚づゝ御加へ置被下度候。草々頓首

八月二十五日 公望

熊谷様

前文の題辞跋等ハ御残し置被下候事

24 大正一年八月二十九日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂熊谷順行殿 親披

△東京永田町官舎 西園寺公望〔消印一・八・三〇〕

輪郭黒線云々御表示之趣段々考候処はハヤメにいたし候。矢張無線にて紙の色氣少し変り候得ば夫にてよろしく候。丈けハ耆尺三分と申入置候処耆尺五分ニ願度候。右不取敢御答迄 草々頓首

八月二十九日 公望

熊谷様 梧右

十二月四日 午後投函

27 大正二年一月十日

○京都寺町通姉小路角 鳩居堂にて 熊谷順行殿

△沼津千本浜 西園寺公望

永楽大典云々為御知被下感謝の至ニ候。右ハ望無之候間先方へ御埋り被下度候。猶珍本出現の節ハ御注意願上候。草々頓首

一月十日 午後投函

25 大正一年十一月一日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂熊谷順行殿 親披

△東京永田町官舎 西園寺公望〔消印一・一一・二〕

目録御遣し被下落手仕候。右のうち焔炉湯沸し添候品入札願度候。勿論あまり高価の品ハ不用ニ候間おほよその処代価見当御ふし被下候。要事而已 草々頓首

十一月一日

熊谷様 梧右

竹の掛物表装御急がせ被下候

26 大正一年十二月四日

○京都寺町通姉小路角 鳩居堂熊谷順行殿 東京永田町官舎 西園寺公望〔消印一・一一・四〕

早速御返事被下感謝の至に候。焔炉湯沸はヤメにいたし候間右御承知被下度候。草々頓首

28 大正二年一月十七日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂 熊谷順行殿〔消印二・一・一八〕

△東京駿河台 西園寺公望

宋麁九經云々御申越被下候処右ハ望ミ無御座候間不取敢御答迄 如此候也

一月十七日夜投函

29 大正二年三月十五日

○京都姉小路寺町角 鳩居堂 熊谷順行殿行

△〔印版〕神奈川県大磯町 侯爵西園寺公望〔消印二・三・一五〕

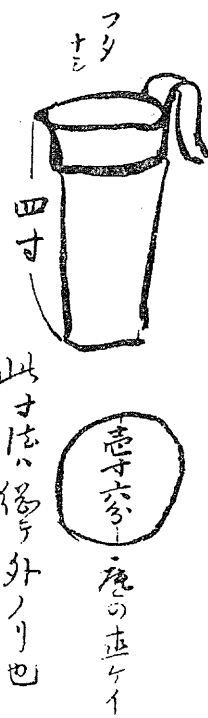
唐本三冊小包にて差出候間着の上ハ帙御申付被下度候。尤表紙ハとり替るニ及不申候。右御依頼迄 草々頓首

30 大正二年六月五日

○市内寺町姉ヶ小路角 鳩居堂熊谷順行殿 親披

窓 △洛東田中村 西園寺公望〔消印二・六・五〕

史 拜啓 毎々御面働申兼得共左の如き品を純銀にて御申付け被下間布  
哉。御当地にてタンボ又はチロリと申やう存候。



右形は市中銅又はアルミニーなどにて有之候と同様の形即ち普通の形  
状ニいたし度候 蓋ナシ 壳合ほどいればよろしく候 多少の増減ハ  
かまひなし 目方ハなるべく軽くいたし度し且ツ至急を要し候 右仰  
依頼迄 草々頓首 公望

六月五日

熊谷様 梧右

31 大正二年七月十八日

○京都寺町姉ヶ小路角 熊谷順行殿 親披 〔版印〕東京駿河台

侯爵西園寺公望

△〔消印二・七・一九〕

御依頼いたし置候銀酒器□かけ物表装並ニかけ物掛け自在出来の上は  
上州伊香保温泉湯木暮武大夫別荘あてにて御御遣し被下度処 草々頓  
首公望

七月十八日

熊谷様 梧右

32 大正二年十月十二日

○市内銀座尾張町新地 鳩居堂支店熊谷順行殿 親開〔消印二・十  
・一六〕

△駿河台 西園寺公望

印寸法相違有之望ミよりは大きく相成候ニ付更ニ至急御申付被下度候  
亦多酒朱文 如此いたし度候

至囑

出成の印ハ折角の事故此儘申受候 病中乱筆乞海恕

十月十二日 公望

熊谷様

33 大正二年十一月

○市内寺町姉ヶ小路角 鳩居堂熊谷順行殿 親披 〔消印二・十一  
・一〕

△田中村 西園寺公望〔消印二・十一・一〕

黄びふき しま紅

頬じろ 赤ひげ二

小めじろ 目白二

薙鷲二

過刻御来賀の節申入候処 桐寸法如左改正候うちり六寸壳分と有之  
処を六寸三分二（二分だけ広くなる）奥行壳尺三寸の処を壳尺三寸  
三分二（三分だけ広くなる）

高サハ元のまゝにて願度候 要用而已 草々頓首 公望

熊谷様 梧右



34 大正三年十月二十四日

○市内寺町姉小路角 熊谷順行殿 親披

△田中村 西園寺〔消印三・十・二四〕

拝啓 昨日は御多忙中御案内被下感謝の至ニ候。祇園町の裏と題する小品画買取度存候。勝田為重<sup>五</sup>国と目録ニ有之候。事務局迄電話にて<sup>貴にん名又ハ他にても</sup>も御かけ置被下候はゞ宜布と存候、小生の名は出ざるやう願上候。色々御面勤御海容可被下候 草々頓首 公望

十月廿四日

熊谷順行様 梧右

35 大正四年一月二十三日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂本店御中〔消印四・一・二三〕

△兵庫県須磨 西園寺家〔消印四・一・二四〕

山水画表具とりかへ勿論上等の表具には及不申候。箱も廉品にて且布候。但し桐にて為御作 藹山画帖 箱御作らせ可被下候。是ハ桐にて上等ニ願上候。楚辭四冊を老帙ニ含英二冊頭字韻一冊検韻一冊右四冊を老帙ニ右いづれも木綿にて宜布候。帙御作らせ願上候。御多忙中御手数ながら右御申付け被下度候。品物は小包にて為出候。京都本年ハ大分寒気強きよし伝聞候。御起居如何 用事而已 草々頓首 公望

一月二十三日

熊谷順行様

追て含英頭字韻ふち書きをきり去る事 検韻の上並ニ横をきりて四冊大小を揃へる事 表紙も序ニとりかへ例の狐色の紙ニする事 右間違なきやう願上候

36 大正四年二月十三日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿 親披

△兵庫県須磨 西園寺公望〔消印四・二・一四〕

拝啓 昔年御囑認め物三枚小包便にて差上候。依例見苦しく汗顔の至リニ候得共御叱留願上候。右の内二枚は兼て御遣しニ相成居候品汚損いたし居候ニ付有合の品ニ認置候。御海恕被下度候。猶又便面其他小品数葉並ニ愛知県人依頼云々の品九葉有之とても病腕急には応じ兼候。さりとて此儘御預り申置候ては汚損遂ニ用ニ不堪やう相成べし。

仍て一応返上候不惡御諒恕被下度候。いづれ帰京拝芝の上委布可申述候。余寒殊ニ甚しく候 御自重專要ニ存候 草々頓首

二月十三日

熊谷様 梧右

又白前文の次第実ハ処ニよりあづかり居候。認め物を取り寄せ整理を試候処、意外ニ多数にて望洋手を著るの意なく仍て先方のわかり居り候ものは一応尽く返却の事ニいたし候。御違約のやう相成候。恐悚の至に候。万拜眉御話可申候。多罪々々

37 大正四年二月十九日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿 親披〔消印四・二・一九〕

△兵庫県須磨 西園寺公望〔消印四・二・一九〕

御手帋其他正ニ落手候。色々御手数ニ相成感謝の至ニ候。筆ハ少し間違にて陶庵用筆の大又ハ中ほどのおほきさの品入用ニ有之候。御遣しの品ハ小ニ過ぎ候。軸の直径六分乃至三分五厘ぐらゐのもの貴店に有之候はゞとりまぜ四五本更ニ送り被下度候。出来合無之候はゞ態々作

らせには及不申候。尤筆の良否には係り不申候。筆ニ剛柔を試度其上にて製造の事ニいたし度候。書画家年表も老部申受度御送りの本此儘留め置候て宜布哉。又ハ別に本屋へ御命じ被下候哉。いづれにても御都合ニ願上候。此地珍らしく積雪二三寸ニ及申候猶飛雪紛々非常壯観ニ御座候。京都如何 草々頓首 公望

二月十九日

熊谷様 梧右

### 38 大正四年三月七日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿 親披

△須磨 西園寺公望〔消印四・三・七〕

拝啓候 当屋雅号御はし被下感謝の至ニ候。来九、十兩日の内御来駕被下候。趣諒領御待申候。其節例の薄き画箋帛式拾枚を二ツに切り候（即半切四拾枚）並二尺式寸の統を四尺五寸ニ切り候。拾枚右御持参被下度候。毎々御面動恐悚此事ニ候。御預り朱肉など有之拝芝の上返壁可致候。右御返事旁 公望

三月七日

熊谷様 梧右

### 39 大正四年三月十二日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿 親披

△兵庫県須磨 西園寺公望

拝啓 一昨日は御揃にて御来駕被下感謝の至候。其節願置候薄帛見本早速御遣し落手候。同興栄と有之候品ものニいたし度候。老反可申受

候。右ハ来る廿日頃迄に田中村へ御とどけ置願上候。住友今朝来訪瀑布図為見候得共落第ニ候。不悪御諒恕可被下候。拝芝可申述候 御返事旁 草々頓首 公望

三月十二日

熊谷様 梧右

掛物ハ其内書留小包にて返上可致候也

### 40 大正四年三月十六日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿行 須磨 西園寺公望〔消印四・三・一六〕

瀑布図掛物本日書留小包ニ出し置候。右御案内迄 如此候 以上

三月十六日

### 41 大正五年二月十三日

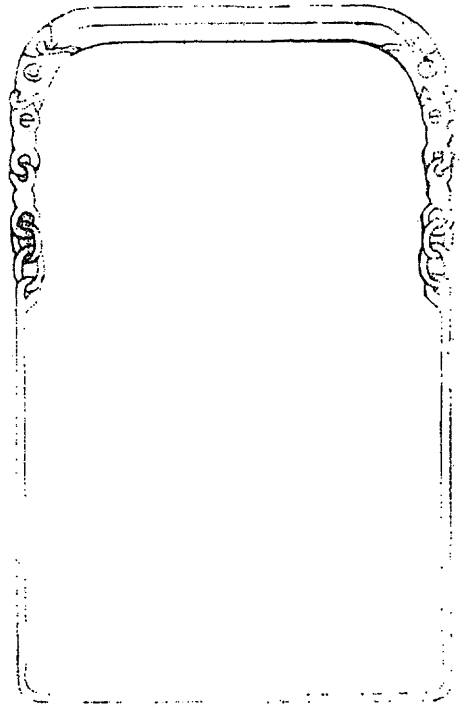
○京都寺町姉ヶ小路角 鳩居堂本店御中〔消印六・二・一三〕

△相州湯河原 西園寺家ヨリ〔消印五・二・一四〕

拝啓 過日は佳菓御恵与被下度々賞味候。篤く御礼申入候。却説甚御面動ながら即帛専用の品作らせ置度様式は鍊城氏と御相談被下上へ御申付願上度候。清風荘とか陶庵とか申文字を入れ御方、宜布歟可然願上候。別帛ハ小池<sup>いけ</sup><sup>い</sup>々堂よりもらひ候品ニ候。御参考迄ニ入置候得共此通りにてハ妙ならず候。用事而已 草々頓首 公望

鳩居堂信吉様 梧右

二月十三日



42 大正五年二月十八日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿行 親展〔消印五・二・一九〕

△相州湯河原 西園寺公望〔消印五・二・二〇〕

拜啓 印影用帟見本早速御送被下感謝の至候。○印の式にし候て△印の色にいたし度候。文字は陶印も印稿とし候て桑名氏に篆玉為致度候。同氏へ御願被下候はゞ大幸不過之候。右御返事迄 草々頓首

公望

二月十八日

熊谷様 梧右

朱肉少々御送り被下度候。此地へ携帯の品に彫刻の凍石の粉入り候て工合あしく相成候。百目又は五十目にてても宣布候。肉池例のガラヌに願度候。但し荷作り御注意可被下候。前年破碎して着いたし候

43 大正六年一月二十一日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿行

△東海道興津水口屋 西園寺公望

藤寿一帙並に蠣隨て接手候。毎々御好意感謝の至に候。草々  
一月廿一日午後投函

44 大正六年三月三日

○京都寺町通姉小路角 鳩居堂熊谷信吉殿 親披〔消印六・三・二〕

△東海道興津駅 西園寺公望〔消印六・三・三〕

拜啓 御来示の趣謹領候。本日秋元子爵へ投書候て委曲依頼いたし置候。右ニ付猶仁兄ヨリ委曲聴き呉れと申遣候間、貴恙御快気次第御東上にて子爵へ御面会御頼ミ必用と存候。右不取敢御返事迄 草々頓首  
公望

三月二日

信吉様 梧右

45 大正六年三月十一日

○東京京橋区銀座尾張町 鳩居堂支店にて 熊谷信吉殿 親披

〔消印六・三・一一〕

△東海道興津町 西園寺公望〔消印六・三・一二〕

拜啓 過刻ハ御尋被下感謝の至に候。御囑文字ハ圖如此可認哉または  
◆如此可認哉。前例わすれ候ニ付乍御面働御一報被下度候。用事而已  
草々頓首 公望

窓 三月十一日

史 46 大正七年二月十六日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿 親披

△二月十七日出 東海道興津駅〔版印〕 侯爵西園寺公望〔消印七・

二・十八〕

拝啓 御囑帛紗揮毫候処、墨を受不申補筆を試候得共至底見ニ堪ず抹殺候。幸ニ大の分ハ手を触れ不申候ニ付合て返上候。ドウサを敷とか何とか熟し候様御工夫の上更ニ御郵送被下度候。静寿会額見苦しく汗顔不啻候得共御叱留願上候。過日近衛家云々貴翰正接手候。御成功を祈候。用事而已 草々頓首

二月十六日

熊谷様 梧右

切地代償御事ハ勿論ニ付御序ニ御申遣し可被下候。

47 大正七年三月二十日

○京都寺町通姉小路角 熊谷信吉殿 親披

△東海道興津 西園寺公望

拝啓 清囑帛紗書留小包にて為出候間御叱留被下度候。此度の品も矢張り墨付妙ならず非常ニ困却候。幾度も塗擦候て醜々怪々なるものをしあげ候。印肉をも受ず、五六度押して御覧の如くなる淡紅色をいたし候。御一笑可被下候。小生二月末より流行感冒にて臥尊候処更に神経痛を並発し漸く昨日にいたり起坐候。仕合に候。夫故延引無申訳候。御海恕是祈御尋も候はゞ独山鋏齋鋏城諸君へも宣布御伝言被下

度、猶又過日は好物なる佳品御送り被下病中殊ニ難有存候。多謝々ニ不遠入洛の運ニ有之万拜芝ニ譲り候。草々頓首

三月二十日 公望

熊谷様 梧右

48 大正八年十一月六日

○京都寺町姉ケ小路角 鳩居堂本店御中〔書留〕〔消印八・十一・

六〕

△〔版印〕東京駿河台 侯爵西園寺公望〔消印八・十一・七〕  
来九日相国寺中林光院落成入仏式執行の由ニ付、香壺包供へ度右御と  
り計ひ可被下候。白木の台ニ候爵西園寺公望との紙の札をさげ為持御  
遣し願上候。香ハ白檀にても沈香にても其他のものにても宣布候 御  
見はからひ願上候。二三拾円の品にて宣布候。以上

十一月六日 西園寺

鳩居堂御中

49 大正九年二月二十四日

○京都寺町姉ケ小路角 鳩居堂熊谷信吉様 親展〔消印九・二・

二一〕

△〔版印〕静岡県興津 西園寺公望

拝啓 其後ハ御無沙汰申候処如何御起居候哉。伏惟万福、却説別鋏帟齋翁山水如例表装願度箱も為御作可被下候。右御願迄 草々頓首

二月念四日 公望

信吉様 梧右

帶魚少々右ハ此地捕獲の品にて特ニ為作候ニ付差上候。御笑留被下度候。兼て願置候かけ物並ニ石榻製帖出来候はゞ此地へ御送り被下度候。猶又書棚も延引なきやう願上候也

50 大正九年五月二十六日

○京都寺町姉ヶ小路角 鳩居堂本店御中

△〔消印九・五・二七〕 〔版印〕 静岡県興津 西園寺公望

昨年来申受候品々一応払置度候ニ付乍、御面動書付興津迄御遣し被下度候。右得貴意度 草々頓首

五月廿六日 西園寺

鳩居堂本店 御中

陶庵用筆小十乃至二十本ほど御送り可被下候

51 大正九年五月二十九日

○京都寺町姉ヶ小路角 熊谷信吉殿 親披 書留〔書留〕

△東海道興津 西園寺公望

別紙小切手封入候。御查收可被下候。机ハ上出来にて朝夕用居候。只まん中ニ荷作りのキズ付たるは可惜候得共之ハ拝芝の節御話いたすべく候。入洛段々延引候。実ハ賤恙不妙在再至今日候。しかし漸く快候間乍憚御願念被下間布候 草々頓首

五月廿九日 公望

熊谷様 梧右

52 大正十年十二月十六日

○京都寺町姉ヶ小路角 熊谷信吉殿行 親披

△東海道興津 西園寺公望

鉄斎山水画にて帶刀の土が門ニ入らんとする図、題言に山紫水明の関房を押たるもの 右表装を御依頼いたし置候やう存居候処、猶貴家に拝芝候趣鳥渡御調べ願上候。田中別邸に聞合せ候得共わかり兼候に付□□聴候。追曰寒氣甚しく候。御起居如何伏惟万福 草々頓首

十二月十六日 公望

熊谷信吉様

53 大正十一年四月二十日

○京都寺町姉ヶ小路角 熊谷信吉殿行 〔消印十一・四・二〇〕

△静岡県興津町 西園寺公望

例の薄き上等の唐紙砂睡の名を忘れたり 二帖など此地へ御送り被下度御依頼申入候。草々頓首

四月二十日 公望

信吉様

54 大正十一年五月二十日

○京都寺町姉ヶ小路角 熊谷信吉殿 親披〔消印十一・五・二〇〕

△静岡県興津町 西園寺公望

冊ニ大小有之候間様ニ御注意を乞  
小本(三冊)さし出候帙(三冊)を御作らせ被下度候。似合のきれにて願度候。右御依頼迄 草々頓首

五月十九日 公望

熊谷様

窓 過日の帙は御来書により取調べ候処上出来満足に御座候。

本文

史 小本の帙は遅くも六月三日迄に興津へとゞき候やう願上候。甚急候事に候。病中乱筆 御推読被下度候

55 大正十一年三月九日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿行 親披〔消印十一・三・九〕

△東海道興津 西園寺公望

例の無字唐本更らに十帙（三冊入）外に参拾冊（帙なし）右御作らせ被下度候。毎々御面働御海恕可被下候。

帙ハ支那式の和らかき紙にて作る事最妙なり ポール紙にてはかたきに過ぎソリかへり妙ならず

右御依頼迄 草々頓首

三月九日 公望

信吉様 梧右

56 大正十一年十二月十一日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉様行

△〔版印 静岡県興津 西園寺公望〕

申受候品々の代価を払度存候ニ付書附を（興津へ）御送り被下度候。追日向寒御自愛を祈入候。頓首

十二月十一日 西園寺

信吉様 梧右

57 大正十二年一月六日

○京都寺町姉小路 熊谷信吉様 親披

△静岡県興津町 西園寺公望

鏡斎老人画一枚差出候。右可然表装願上候。○台湾産木瓜郵呈候。勿論御承知とは存候得共右ハ内にある黒き種を去り真桑瓜又はメロンなどの様に切て生食候物に二御座候。贅于此要用而已 草々頓首

一月六日 公望

信吉様 梧右

58 大正十二年二月七日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉様行〔消印十二・二・八〕

△静岡県興津 西園寺公望

鏡斎画表装早速御送り被下正に接手候。上出来にて悦入候。扱同老ハ本年米寿の処何月何日誕辰なるや御調べ被下御一報を煩し度候。右仰依頼旁 草々頓首

二月七日 陶庵

熊谷様 梧右

59 大正十四年五月二十九日

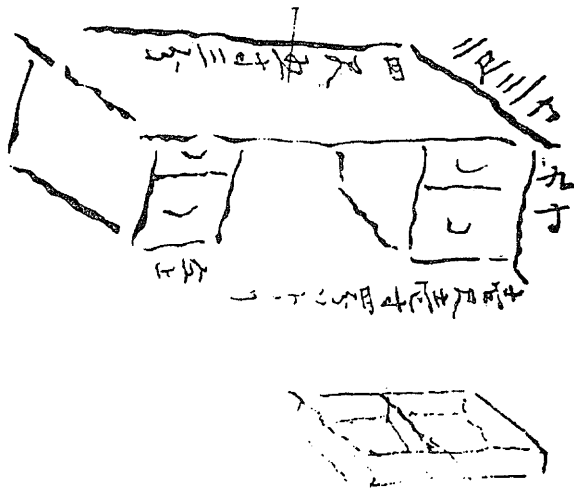
○東京々橋区銀座 鳩居堂支店 熊谷信吉殿行〔印版〕静岡県興津

西園寺公望

大暑如右ニ候 少々相違ありても差支なし 高サのみは九寸を正確ニ願上候

五月二十九日 公望

熊谷様



60 大正十五年一月三十日

○京都寺町姉ヶ小路角 鳩居堂熊谷信吉様行

△〔版印〕 静岡県興津 西園寺公望

線香 拾把ほど中等の品、匂の強き方よろしく候。右御送り被下度候。御承知の通り寓居極々手狭にて台所の匂ひ漏る事あり。夫を消す為めに薰する次第二有之候。右自家用に付籍へなくとも宜布候。

一月三十日 西園寺

熊谷様 梧右

61 五月二十六日

○京都寺町姉ヶ小路角 鳩居堂熊谷信吉殿行

△〔版印〕 静岡県興津 西園寺公望

大形の例の机、以前申受候と同様の品御申付願度候。実は七月早々御殿場へ参り

度心算に有之彼地にて入用に御座候。右御依頼迄 草々頓首

五月二十六日 公望

信吉様

書附御序に御回し被下度候。過日京都にて山田へ申付候処貴家へ申入る事をわすれたる歟とも存じ候。

62 三月八日

○京都寺町姉ヶ小路角 熊谷信吉殿 親披

西園寺公望

兼て御依頼いたし候机ハ昨日（机可け）鍵並ニ貴書今朝接手候。色々御手数感謝の至ニ候。御来示之通り暑氣甚しく候処御多祥御起居阿喜（之にしかずの）如之小生

もまづ小康を保居候乍憚御休神被下度候。秋末又ハ初冬には入洛得拝

芝候事と相楽中候。病筆参差不如意 草々頓首

九月十二日 公望

熊谷様

右机代価其他色々有之候と存候。一応払度乍御面働書附け御郵送願上候也

窓 63 五月二十二日

○寺町姉小路 鳩居堂 熊谷信吉様 急用 西園寺公望

史 △旅館印刷封筒「京都麩屋町 沢文旅館」

拝啓 甚御面働申兼候得共、広羣芳譜の前ニ関する部一見仕度御藏書あらば右の部分だけ拝借仕度、なくば御友人方御尋被下候はゞ大幸無涯候。右御願 草々頓首

64 四月一日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉様 親披

△静岡興津町 西園寺公望

拝披候 お手紙ニよれば朱の方辰誕不齋候得共矢張り梅の方ニ願上候。是すら我と於てハ大奮発ニ御座候。御一笑可被下候。今朝電信にて右申入候。経貴覽候事と存候。取不敢 草々頓首 公望

四月一日

信吉様 梧右

65 一月二十六日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂熊谷順行殿

△東海道沼津町字子本 西園寺公望

陶庵用筆小の分二十枝御郵送被下度候。職工へ十分会入ニ製造候やう御注意被下度候。右御依頼迄如此候也

一月二十六日夜投函 角印 □西園寺

66 十二月三十日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂 熊谷様行

△東海道興津 西園寺公望

拝啓 歳云暮矣如何御起居候哉伏惟万福 却説帶留少し御笑草ニ差上候。権御叱留ハ大幸不過之候。御案内旁 草々頓首

臘月卅日 公望

熊谷御両名 梧右

67 二月十日

○京都寺町姉小路角 鳩居堂 熊谷信吉様行

△〔版印〕静岡興津 西園寺公望

かけ物二枚きれ表具 箱二

中等の品にてよろしく候

木額表裡二枚 紙の両フチを少々おとすか

是ハ額の大にならぬ為め

普通の額表裡二枚

此分の裡の書はマン中に置くグルリも表とおなじきれを用ゐる

合計六枚昨日書留小包にていだし候間可然御製作被下度候

一月十日 西園寺出

信吉様

普通額のフチは木又はヌリ物にてもおまかせ申上、かけ物額共きれ其他おまかせ申上

68 四月二十四日

○京都寺町姉小路角 熊谷信吉殿行



△静岡県興津 西園寺公望

□紅並に注文本體に落手候。但し帙の紙が注文通りになって居らずと存候。しかし出来の上へ此儘受取候。草々頓首

四月二十四日 公望

信吉様へ

竹の子澤沢に御恵与被下依例非常の佳品感謝の至に候

69 六月五日

○京都市寺町姉小路角〔版印〕西園寺

△緘

清囑題辭乍延引差上候。依例見苦しく赤面の至に候。御叱留被下度候。如左遊印至急御はらせ被下度候。材ハ上等の品有之候得ば妙なれども無之候はゞ何にてもよろしく候。切に至急を要し候。

朱文にて、道徳為師友

陶 如上の大きさ

要用而已 草々頓首

六月五日 公望

熊谷順行様

70 六月三十日

○京都寺町姉ヶ小路角 鳩居堂 熊谷信吉様行

△〔版印〕静岡県興津 西園寺公望

(敷ラシヤの類も前日様御備へ願上候)

机出来上り次第御殿場へ御送り願上候。同所行延引云々申置候得共預

定以前に準備とゞのゐ候わけに候。用事而已 草々頓首

六月二十九日 公望

熊谷様

東海道御殿場駅字新橋

西園寺別荘

71 七月二十二日

○京都寺町姉ヶ小路角 熊谷信吉様行

△〔版印〕静岡県御殿場 西園寺公望

昨日御殿場に転居候。机早速相用候。工合よろしく開懷の至りに候。

却説例の虫よけ香々箱凡百個ほど入の品御送り被下候。右御頼申入候 用事而已 草々頓首

七月廿二日 公望

熊谷様

熊谷様

72 九月二十八日

○熊谷信吉殿 親拔 書物添 西園寺公望

△緘

拝啓 弥明日は御帰京候趣就てハ過日御依頼候。いれこ印二箇御忘れなく御申付願上候。猶又此書の表紙並ニ帙をとりかへ先般願上候超然樓印譜の如き仕立にいたし度右宜布願上候。賤恙未快閉口に候。御同情被下度候。万緒再会に譲り 草々頓首

九月二十八日 公望

熊谷様 梧右

窓 追而冊中きれ候処有之右は紙に包み書付置候間御繼がせ被下度候

史 73 九月二十九日

○熊谷信吉殿 親披 西園寺公望

△緘〔版印〕西園寺

拝啓 過日は御来東被下感謝の至に候。其節拜見被下候。軸三幅返壁共猶又永々拝借いたし候。海屋画巻是又差出候。並ニ御査収可被下候。篤く御礼申入候。又手重々御面働ながら山中都逸松図表装いたし度候間可然御申付願度候。別に小品二種是は帙御作らせ被下度候 宜布願上候。いづれ京都に於て寛々拝芝可仕候。其節万可申述候。右要用而已 草々頓首

九月二十九日 公望

熊谷信吉様

74

鍔筆の道具 右卓斎又は鍔城へ相談

錫茶入 同壺 陶器花活

右の箱を作らする事

極小牙印 二組ゲタノハ

公望 陶印 浩々乎 先酔

印の軸 二箇 印矩薄き小品式箇

右は印三つづつ入る事

林則叙の写真額

右タテ作る事、並に木像の事

鍔雲藏龜六本の帙

手帳五本の帙

右もめんにて作る事

焼印 清風荘 陶庵藏

右三箇づゝ六箇作る事

(大)一寸二分の八分(中)九分の六分(小)五分の二分

小品骨董入の箱 重子ニする歟

右鳩居堂へ相談の事

出物くら書きの筆は

右相談の事

この史料紹介を書くにあたり、書翰を快くお貸しいただいた熊谷直英様・八重子様、解説に於いて、御指導いただきました神戸女子大学名誉教授・山本四郎先生、向日市文化資料館・松島裕美子姉にここで厚く御礼申し上げます。

① 注 鳩居堂と筆については、安藤徳器著『陶庵素描』に次のようにある。

『(略) 清風荘の留守居役野内芳蔵氏が考案した門前の黒竹を軸に、鳩居堂製の毛筆で気分の湧くまゝ習字されることもあると云ふ。』

② 竹越与三郎著『陶庵公』三一八頁に『(略) 公はこの別荘に起臥する間に、鉄筆を揮って、印材に字を刻することに趣味を覚えたが、その師は親戚に当る小林卓斎や、桑名鉄城などであった。当時の印刻熱は中々に激しく、印譜に関する名著ありと聞けば閲覧せねば気がすまぬほどで、その中数種の名著はこれを大切に保存してゐる。公の印刻熱はかく強いので、その集めた印も中々に多く、数千顆に達し、未だ刻せざる田黄田白、その他の名材数百個を珍藏し、日夕愛玩してゐる。公はまた曾て三又漁叟の印を刻して余に贈られたるが、その出来ばえは実に見事なものであった。(後

識の識音器

略」とある。

③ 公文書の偽造を防ぐための押印、または書画などの右肩に押す長方形の印。

④ 「広羣芳譜」は書名。一百卷。清、汪灝等奉勅撰。明の王象晋の羣芳譜に因って、清の康熙四十七年汪灝等が勅を奉じて刪改増補したもので、象晋の旧文の面目は殆ど存せず、彙考・集藻・別録の三種に分っている。

〔四庫提要子、譜録類〕（大漢和辞典四、六三二頁）

⑤ 超然楼、室名。○明、馮時可の室名、○清、陳鍊の室名。（大漢和辞典十、八四四頁）

陳鍊○清江蘇華亭の人。字は在專。号は西菴。又、鍊玉道人。詩、書を善くす。懷素の法を以て古鐘鼎文を写し、章法絶妙。又、篆刻に巧。書室を超然楼・属雲楼・適安草堂といふ。著に秋水園印譜・属雲楼印譜・超然楼印譜・適安草堂詩鈔がある。〔飛鴻堂印人伝、一〕。（大漢和辞典十一、八七五頁）



西園寺に作った机と同型の机（熊谷家所蔵）